

## 第四十四回 歯の矯正治療・歯のインプラントの悪影響

歯の矯正治療は各歯をワイヤで固定する為に頭蓋骨もロックされ、それを補正する為に骨盤の仙骨のブーツ部に補正がおこります。

このブーツ部はおしりの骨盤の真中の骨である仙骨と仙骨(仙骨の下はおしりの尾骨)の左右両隣の腸骨(足のつけ根と接している)と、この仙骨の上部の左右の端で隣の腸骨との隙間が仙腸関節です。

顎関節症をおこしますと、必ず仙腸関節部の左右隙間の大小と左右の腸骨が逆方向に捻れをおこしているものです。

その為に左右の足の長さの違いが大きく及び体全体の捻れをおこしているものですが、それ以外にさらに外的障害(歯の矯正治療、インプラント、体に合わない薬、電磁波等)が加わる為に硬膜の緊張(特に足の短足側にはっきりとでる)をおこし仙骨のブーツ部に補正がおこることになります。

このブーツ部は仙骨下部の左右の端の一部分と隣の腸骨の端の一部分とがお互い前後にかさなりあっています。

硬膜の緊張をおこすことにより足の短足側に仙骨の下部であるブーツ部に腸骨とのかさなり合ったところがほとんど隙間がなくなり、くっついた状態で仙骨も腸骨も動けなくなり左右の足の長さが少ししか変わらないものです。

そして本来仙骨は呼吸の吸気、呼気により仙骨の中心を軸として吸気の際は仙骨の上部は後へ動き 軸を中心として下部は前へ動き、呼気はその逆の動きをするものです。

このように仙骨は呼吸より生理的運動するものですが、それが仙骨と腸骨とがくっついて動きが出来なくなると血流のポンプ作用(血流がわるくなるとリンパの流れも悪くなる)出来なくなるだけでなく 頭の後の後頭骨と首の骨の1番上の骨との間が癒着のような状態をおこし、首から頭に入る2つの動脈があります。

その2つの外頸動脈と内頸動脈が閉息される為に頭に血流障害をおこし、脳に虚血現象をおこし昼間眠くなったり、夜寝れなかったり、頭痛をおこしたりするだけでなく、頭と首の境目に癒着しますと その補正として足のアキレス腱の内側のショウキョウ関節もかたくなりその為足のふくらはぎの筋肉は 第2の心臓と言われますが、動きが悪いが故に全身の血流が悪く、内臓も弱り、全身が冷え性等をおこし、自律神経の最高中枢である視床下部に異常をおこし神経系統にみだれが生じるものです。

治療は硬膜の緊張の顎関節症をとり、その次に一般に言う顎関節症つまり左右の腸骨の捻れと仙骨との 関係の仙腸関節のズレをとりそして頭蓋骨に移らなければならない為に治療期間が長くなるものです。

歯の矯正治療で顎関節症はよくなるということはありません。

左右の顎関節症のレントゲンを影って、左右均等に影っているから顎関節症は治ったということは

ありません。

顎関節部以外の頭蓋骨の骨はどうなっているのか又首の骨、背骨、骨盤はどうなっているのかが問題です。

これらを見逃しているものだから歯の矯正治療後の体の不調を訴えるのはこのことです。

骨盤は人間の体の中で1番大きな骨の集まりです。

中学生の成長段階ですと骨盤を治せば頭蓋骨及び顎関節症も勝手に治るものです。

成長の末期の高校生以上は骨盤を治すとスグに頭蓋骨に移り、頭蓋骨の骨は簡単に動くものです。

頭蓋骨を正常にしてそこで薄いマウスピース等と並行して治療するものです。

骨盤を治さないと頭蓋骨を動かすものだから、体が無茶苦茶になりひどくなると仕事さえも受けなくなるものです。

又、インプラントも同じです。

本来の歯は咬むと歯根膜で浮沈みのクッション作用するものですがインプラントの歯は歯根膜がなくて骨にくっついている為に他の自分の本来の歯よりも低く作ってあるだけでなく、食事した時骨に衝撃が加わる為に硬膜の緊張をおこすものです。又インプラントの材質はチタンという金属です。

チタンは体に対して親和性がありますが電磁波に対しても親和性があり敏感に反応しさらに硬膜の緊張をおこすものです。

インプラントを入れてなくても何週間も朝から晩迄パソコンを触っている人は電磁波でやられ硬膜の緊張をおこしているものです。

頭蓋骨の側頭骨(顎関節部のメス側の骨)が右方向に回転捻れ、左右どちらかに傾いていると必ず骨盤の

同側の腸骨も同じように回転と傾きをおこしているものです。